

## キヤノン株式会社

### 2020年12月期 第1四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

- Q1. 新型コロナウイルスの収束時期が見通せない中で、2Q以降の業績改善のために何を行っていくのか。新たな構造改革を行う必要はないのか。**
- A1.** 経費削減、棚卸資産の削減、設備投資の見直しなど、自社でコントロールできるものについては、徹底的に絞り込んでいく。構造改革は昨年やりきって一区切りをつけたが、経営環境が大きく変化していることから、さらなる組織の見直しや要員の適正化は必要であり、すでに着手している。
- Q2. 1Qの新型コロナウイルス影響をセグメント別に教えて欲しい。**
- A2.** オフィスの複合機では、サプライチェーンの問題で製品供給ができなかったが、現在は落ち着いている。次にイメージングシステムのカメラにおいては、供給面での問題に加えて消費マインドの低下により販売は影響を受けた。産業機器については、渡航制限により現地に出向くことができず、設置作業が遅れている影響を受けた。
- Q3. 未曾有の厳しい局面を迎える中で、キャッシュの使途の考え方に変化はあるのか。**
- A3.** 新型コロナウイルスにより経営環境が厳しくなる中、資金繰りは非常に重要であり、経費削減や投資の見直しは当然行わなければならない。しかしそのような中でも、中長期的な成長に必要なものについてはきちんと見極め、実行していく。配当については、中長期的な業績や資金繰りを考慮して決定するという方針に変わりはなく、現在置かれている状況と社会的影響とを勘案しながら決定していくことになる。
- Q4. 今回の新型コロナウイルスの拡大が、メディカルの画像診断装置の需要に与える影響をどのように捉えているか。**
- A4.** CTやX線など、当社はここ数年かけて普及価格機から高機能機まで商品ラインアップを拡充しており、医療機関の肺炎検査への需要に対応できる体制は整っている。これらの画像診断装置が、一日も早い新型コロナウイルスの収束に貢献し、結果としてシェアの向上につながることを期待している。

## キヤノン株式会社

### 2020年12月期 第1四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

**Q5.** イメージングシステムの3月末の在庫を見ると昨年末よりも増えている。供給不足であったカメラの在庫が増えている理由を教えてください。

**A5.** カメラは、中国のサプライチェーンの問題で部品が不足し、完成品ができずに仕掛品が増加したのが主な理由であり、商品在庫は適正である。中国の生産は正常化に向かう一方で、別のアジアの国がシャットダウンするなど、引き続き管理は難しい局面にあるが、製品毎の需要を十分勘案して在庫管理を行っていく。

---

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。